

令和8年度 第1回 北杜市本庁舎整備検討委員会
《議事録》

1 日 時 令和8年6月29日(月) 13:30～15:30

2 場 所 長坂総合支所 2階大会議室

3 出席者

【委員長】 田中 勝

【副委員長】 清水 真理子

【委員】 名取 富徳 小林 稔蔵 小松 二三子 中山 宏樹 坂本 正輝 小松 建
深澤 栄一 須藤 治憲 山田 榮治 波木井 みゆき 溝口 奈緒美
吉田 光男

【事務局】 政策秘書部長 大芝 一 総務部長 平井 ひろ江 政策調整官 宮川 勇人
政策推進課長 進藤 修一
政策推進課行政改革担当 天池 富貴男 坂本 夏樹 深澤 清拓

【アドバイザー】 向山 建生

4 欠席委員 門野 圭司

5 会議録署名 名取 富徳、小林 稔蔵

6 公開・非公開の別 公開

7 傍 聴 2名

8 会議内容

1) 開会

2) 委員及び職員紹介

3) 副委員長の選出について

4) 委員長あいさつ

5) 議題

(1) 第1回北杜市役所本庁舎整備に係る市民ワークショップの結果報告について

(2) 第2回北杜市役所本庁舎整備に係る市民ワークショップ資料の検討について

(3) 北杜市役所本庁舎整備基本構想(案)の骨子について

(4) 令和8年度検討スケジュールについて

(5) その他

6) 閉会

9 会議経過

1) 開会 [13:30]

2) 委員及び職員紹介

3) 副委員長の選出について

昨年度まで副委員長を務めていた委員が、所属団体の役職改選に伴い交代となったことから、改めて副委員長を選任する必要がある。委員から自薦及び他薦の申し出がなかったため、事務局から清水 真理子委員を副委員長とする案を提示したところ、賛成多数にて事務局案のとおり選任された。

4) 委員長あいさつ

5) 専門アドバイザーの参加について

昨年度実施した市民アンケートにおいて、新庁舎に求める機能として「災害時の業務継続性や備蓄などの防災機能の充実」を重視する声が最も多く、整備方針への賛成理由としても「老朽化・耐震性」や「防災能力」を挙げる方が合計で半数以上であった。このことから、「防災拠点」としての機能を確実に確保するため、設置要綱第7条に基づき専門的な見地から助言をいただく専門アドバイザーとして、特定非営利活動法人 減災ネットやまなし 理事長 向山 建生 氏の出席を事務局から提案。承認された。

6) 議事

議題(1) 第1回北杜市役所本庁舎整備に係る市民ワークショップの結果報告について

(発言者)	(発言内容)
委員	第1回ワークショップに私も見学に参加した。皆さんが上手にワークショップを行っているなど感心した。参加者の中には、何を話したらいいか、話しぶりなど感じる方もいるかもしれないと思っていたが、ファシリテーターや市職員が入っていたため、大変スムーズな運営だった。一つ質問だが、以前ワークショップの参加者に学生が入ると聞いたと思ったが、それは叶ったのか。私が気が付かなかっただけで実際に参加していたのか、それとも入っていなかったのか、伺いたい。
事務局	昨年度の委員会で、様々な世代、特に若い世代からの意見を参考にしたいと話が出たため、市内の中学校と高校に実際に赴き先生に依頼をした他、校長会においても依頼を行った。また、チラシも各所に設置した。 しかしながら、残念ではあるが、生徒学生からの応募はなく、今回ワークショップの参加者は地域の代表者と公募の方を合わせて49名の参加となった。
委員	学生にとって忙しい時期だったのかかもしれない。承知した。
委員長	資料にある当日の写真を見ると様子がわかる。開始してすぐの写真を見ると表情が硬く緊張している様子が伝わってくるが、後半の写真では段々と表

情が緩んできて笑顔が増えているため、会をうまく進行してもらっていたのだと感じた。

先ほど委員から当日のことについて質問、意見、感想があった。6名の委員がワークショップの見学に参加されたので、順番に感想をもらいたい。

委員

当日見学する中で、私は普段は口を出すことが多いが、今回は参加者の皆さんの様子をしっかり聞いていた。皆さん新庁舎のことを考えて意見を出し合っていて、「それは違うんじゃないか」「こういう意見もあるよ」と、色の違う付箋を使ってそれぞれの意見に対しさらにさらに追加で貼っているのが、とてもいいやり方だなと感じた。

副委員長

前に発言したお二人同様、非常によいワークショップだったと思う。本当にたくさんの意見が出ていたが、今日の資料を見て、当日出た意見がほぼ完璧に網羅された資料になっていると感じた。会場で出た意見は全てここに書かれていると言って過言ではないと思う。行政の皆さんいい資料をありがとうございます。

委員

グループワークの手法は、学校でも研究会などで使っているが、グラフィックレコーディングによる講評は初めて拝見した。絵や、かわいい文字、色使いで、話し合った内容をさらにわかりやすく説明、確認できるところが新しい手法として、非常に興味深く見させてもらった。

委員

他の委員が言うように、本当に良いワークショップだった。このような形で次回以降のワークショップも進めていけたら良いと思う。

委員

このように市民の意見を広く伺って集約できていて、とても良い方法だと思う。今回の参加者は皆さんそれぞれの立場で色々な場で活躍されている方々だと思う。先ほど、学生が参加できていなかった話をしたが、参加している年配の方々から、若い人や色々な人が集まれるような、行きたくなるような庁舎にするべきだと意見が出ており、それぞれが色々な世代のことをちゃんと考えてくれているのだと感じた。

委員

参加者の数が多いことに驚いた。それぞれの班で活発に意見が交わされていたが、どの班もなんとなく同じ方向性で進んでいるように感じた。それを見て、早く新庁舎整備が実現すればいいな、と改めて思った。

委員

この資料を見て、すごくよくまとまっており、参加者の皆さんが真剣に考えてくれたことがよくわかって、読んでいて面白い。今回残念ながら学生の参加者はおらず、学生からの意見は聞けていない状況だが、今後例えば紙の

アンケートなどで学生に意見を聞くことはあるか。

事務局

若い世代の意見をたくさん聞きたいなと思い、担当も一生懸命高校を回ったり、先生にお願いしたりと努力をしたが、参加してもらえなかったところである。今年度、この委員会でお願ひしたいと考えているのは、主に場所の選定やおおまかな規模などである。今後、庁舎を実際に作ることになり、その中身にどのような設備や機能が欲しいかを考える場面では、ますます学生や子ども、若い方の意見が重要になると考えている。今年度もパブリックコメントなどの仕組みを予定しているが、今後なるべく若い世代の意見を取り入れられるように、ワークショップの開催など頑張っていきたい。

議題（２）第２回北杜市役所本庁舎整備に係る市民ワークショップ資料の検討について

（発言者）

（発言内容）

委員長

グループ分けは１回目と変わらず、メンバーは変わることがないとのこと、また１回目の振り返りの時間も設けられており、１回目を欠席された方が発言しにくくならないように配慮がなされていることは安心である。

副委員長

１回目を見学した際に、一人の参加者がずっと意見を言っている班があり気になった。そのような場合には、ファシリテーターや職員が他の参加者に意見を求めるようにしてもよいのではと感じた。一人の人がずっと意見を言ってしまう、他の人が言いたいことがあってもなかなか言えないような雰囲気を感じたため、発言できていない方に積極的に発言を求めてほしい。

事務局

当日の資料でも、発言時間が長くなりすぎないように配慮してもらうことを案内しているところだが、議論が過熱してくると長く話してしまう方も出てくると思う。次回以降、一人の方が話しすぎることはないよう、ファシリテーター全員に認識を再共有したい。

委員

また２回目もうまくいって、「来てよかった」「やってよかった」と思ってもらえるようにしたいと思っている。先ほど小林委員からもあったが、グラフィックレコーディングとはどのようにやるのか、楽しみに見ていた。しかしながら、今回のようなワークショップに初めて参加する方もいだろう中で、もう少し、「皆さま本当にご苦労様でした」「意見は上手に言えましたか」など労ったり、ほめたりすることも必要だったのではないかな。八つの班がそれぞれ一生懸命まとめて発表したことを、どういう意味を持ってグラフィックレコードにしているのか、説明があってもよかった。自分たちが発表した

ことをただグラフィックレコードでまとめて終わり、自分たちの話し合いは何の意味があったのだろうか、と感じた方もいたのではないかな。グラフィックレコード自体は非常によかったと思う。まとめ方や字、色の使い方など、上手だなと感じた。ただ、その上で、「皆さんが今回話しあったことを今日の成果としてまとめます」、とか「今後に活かすためにまとめます」のような言葉の補い方ができたらよかったと思う。「今回の話し合いは本当にいいことでしたね」と確認できるような言葉がけができるとよいと思う。

事務局

初回ということもあり、自分たちの役割をこなすことに一生懸命で、全体が見えていなかったなと今感じた。次回は、当日司会してもらうパスコさんや、司会進行する事務局側から、「本当に参考になりました」という気持ちを込めてやりたいと思う。

副委員長

第1回目で、もっと喋りたかったな、と不満に思っただけ帰った人もいたのではないかと、見ていて思った。参加者に感想は聞いていないと思うが、フォローすることも大事だと思う。私の見ていた班では、意見を言いたそうなのになに言っていないなと感じる参加者がいた。次回に繰り返してはいけないと思うので、第1回目の感想を知りたいと思う。

事務局

我々もワークに参加する中で、皆さんが本当に真剣に考え非常に多くのご意見を出していただき、良いワークショップになったなと感じている。一方で、委員が仰ったように、言いたいことを全て出し切ってもらえたのか、もっとあったのではないかと感じている。さらには、もっと意見が出しやすいように工夫できたのではないかと、とも感じている。本来であれば1回目で意見を聞くべきところだが、現状、参加者から意見を聞く機会、手段は設けられなかったもので、2回目にアンケートを実施し、意見があれば伺いたいと考えている。3回目にはその結果を活かして改善したい。

議題（3）北杜市役所本庁舎整備基本構想（案）の骨子について

（発言者）

副委員長

（発言内容）

非常にわかりやすい資料になっていると感じる。基本構想なので、あまり細かい内容になっていないことは理解している。しかしながら、ワークショップにおいて、本庁と支所との関係性について、整合性が取れていないと困る、役割分担など、意見で出ていたと思う。基本構想に具体的な記載は必要ないが、資料中の“③そのような機能、どれくらいの規模が必要か”の部分で、支所のあり方についても関係してくると思っている。支所をなくすので

あれば、その分を本庁に入れる必要があり、残すということであればまた変わってくると思う。この話はどの段階で出てくるのか知りたい。

事務局

本庁舎と支所のバランスについて非常に難しい部分で、頭を悩ませているところである。本庁舎の位置が現在のままであれば、支所は維持する方針である。本庁舎の位置が変わる場合には、新庁舎のできる町の支所は廃止する方針であり、またその後、新庁舎の位置によっては、支所との位置関係や地理的な部分を考慮しながら、だんだんと支所を合理化していく必要がある。この基本構想にその内容まで書くことは考えていないが、構想策定と同時並行で市執行側で考えを進めていく予定である。

副委員長

新庁舎の位置が決まってから支所の話も決まっていくということか。

事務局

その通りである。新庁舎の位置が、周辺に支所が複数あるような位置であれば、それらの支所の再配置は当然視野に入ってくるため、位置が決まった後に具体的な検討に入と思う。

委員

第1回目のグループワークを聞いていた中で、「支所は残るんだよね」「支所が自分たちの近くにあるのであれば、どこに本庁舎があっても構わない」という意見が複数出ていた。支所が心のよりどころであったり、近くにあることを大事にしたい方がいるのだと感じた。今後新庁舎の位置によって支所の再配置の検討も出てくると思うが、ワークショップの中では皆さんが支所を自分の場所のように大事に感じていることを実感したところである。

事務局

委員の皆さまが心配している点は、市としても真剣に考えていくべきものだとは十分承知している。先に説明したとおり今回の基本構想ではあくまで新庁舎の位置を中心に、庁舎の規模感などをお示しするものである。今時点ではどこにどの規模、という議論が確定していないため、それが見えてきた段階で本庁舎がある町については支所をなくす、というのが今の考えである。しかしながら、北杜市は非常に広い。委員から発言があったが、市民の皆さまから支所がよりどころである、というような意見も多数我々の元に届いているため、どのような形態でどの規模で支所を残すのかについては、本庁舎整備の行方がある程度見えてきた段階で決めていく。事務局としては今の段階で具体的な方向性をお示しすることはできないため、現在議論してもらっている新庁舎の位置について決まってきたところで、改めて決めていくということをご理解いただきたい。

委員長

明快に答えてもらえてよかった。承知した。

委員

資料３ページの黄色の部分で、概算事業費について掲載することになっている。北杜市は小さな自治体で、大きな建物を建てることは財政負担になってくると思う。この骨子（案）において概算事業費は掲載するが、資金計画は掲載しないことになっているのは、事業手法が決まっていなかったためだと思う。事業手法はどんな選択肢があって、いつごろ決まるのか知りたい。また、きまった際には、資金計画の中で地方債計画も作る必要があるのではと思う。現状で、どの程度の交付税バックがある制度が使えるのか、わかっていたら教えてほしい。

事務局

財源としてベースになるのは庁舎建設基金であり、計画上 40 億円ある。これをさらに増やすかどうかは決まっておらず検討中である。他にも庁舎建設に使える基金として、まちづくり振興基金、公共施設整備基金などがある。これらをベースに、他に選択肢になるのは地方債である。地方債とは、基本的に借り入れ後、返済額の一定額が地方交付税として国から戻ってくる制度である。しかし、国の考え方として、庁舎の整備については自主財源でやるものとされており、交付税では戻ってこない。ただし、本市では新庁舎に防災機能を持たせる予定であるが、その場合に防災機能に掛かる費用については国の交付税措置があり、割合は 70%程度。このような制度をなるべく活用したい。

さらに、太陽光パネルの設置や高断熱など、環境配慮型の庁舎にした場合には国から補助を受けられるため、できるだけ対応したものにしたい。

また、PFI 事業という手法もある。これは例えば、庁舎建設費用の一部などを民間企業に負担していただき、その分は使用料という形で時間をかけて返済していくものである。この手法を採用している自治体も多数あり、本市としても検討する必要があると考えている。

昨年度の市民アンケートや現在行っているワークショップで財政面の意見が多かったことから、市の将来的な負担が増えることがないように真剣に考えていく。

今回の基本構想では、PFI 事業など、事業手法の検討について記載をするが、具体的な地方債の内容などについては次の基本計画で記載する計画。

議題（４）令和８年度検討スケジュールについて

（発言者）

委員長

（発言内容）

市民ワークショップと検討委員会の日程はこの日程から変更することはないか。確定でよろしいか。

事務局

この日程としたい。

議題（５）その他

（発言内容）

（発言者）

専門アドバイザー

本日の検討では防災の面でアドバイスすることは特にはないが、基本構想の第４章に記載予定の新庁舎の主要機能について、将来の庁舎のあり方を市で十分に検討し将来像を描いて議論をするべきではないか。市民ワークショップの参加者の方々が描く将来像と一致するのか不安に感じる。技術は日々進歩しており、AI や DX の進展、それに伴う行政サービスのあり方、支所の機能など、将来の庁舎のあり方を念頭に置いて基本構想を検討していただきたい。

事務局

新庁舎の基本理念・基本方針について、市民アンケート、ワークショップを実施しながら取りまとめていくのが基本構想となると考えており、防災機能をはじめ、主要機能を具体化していくのは、次年度以降の検討を予定している基本計画となると考えている。いただいた観点についても市民ワークショップの参加者含め、この委員会でも意見をいただけるように考慮していきたい。

委員長

今から 25 年後に日本、北杜市はどうなっているじか。予測はできないが幸せな社会になっていてほしい。そのころ日本の人口は今より約 2 千万人減ると言われている。その中で北杜市がどんな社会になっていて、どんな暮らしがしたいか、将来像を考え、そこから今何をすべきか考えるバックキャスティングの視点。一方で、現状を把握し課題を見つけ改善していくフォアキャスティングの視点もある。この両方の視点、様々な視点で検討を重ねることで、良い計画ができあがると思う。

事務局

資料の中の参考資料について、北杜市の広報誌に本庁舎整備に関するシリーズ連載を 6 月号から開始したことを紹介する。全 12 回を予定しており、市民の方のみならず、委員の皆さまにもご覧いただきたい。

8) 閉会 [15:20]